



日本の働く環境は
大変ってほんとうなの？



さまざまな課題はありますが、 解決に向けた取り組みが 進められています。

時代の流れとともに労働環境も変化。

この20年で日本の労働環境は大きく変化してきました。賃金水準は抑制され、派遣・契約社員などの不安定な雇用形態は増加、長時間労働は是正されずにいます。また、近年では少子高齢化の影響もあり、労働力不足も深刻になりつつあります。このようなさまざまな問題について、私の研究では、労働者の働き方の現状や企業の経営状況、政府の政策など、あらゆる角度から問題を見ていくことで、何が問題の原因となっているかを明確にし、それらの解決策を探っていきます。また、労働環境の現状を正確に把握するための方法についても研究しています。

待機児童問題を解決するには、 保育士の労働環境改善が必要。

2017年に愛知県内の保育所で働く保育士らを対象に大規模な労働実態調査を行いました。調査の結果、毎月平均約14時間も残業手当が支払われていないという経済的損失を被っていることが判明。さらに、8割近い人が自宅に仕事を持ち帰っているなど、保育士の厳しい労働環境が明らかになりました。また、適正に残業手当が支払われている人やちゃんと休み・休憩がとれている人は、そうでない人と比べて1割ほど就業継続意欲が高まることもわかりました。これらの結果を受けて、ある自治体では残業代をちゃんと支払うようにするなど、労働環境の改善に向けた取り組みがはじまりました。今回のケースのように、今後もよりよい働き方や暮らしを実現するためのきっかけとなるような研究に取り組んでいきたいと思っています。



蓑輪 明子 先生

Akiko Minowa

学生時代に女性問題を題材とした本を読んだことで、個人の努力だけでは解決できない抑圧や困難があることを知り、社会科学の道へ。さまざまな問題が生じる背景をあざやかに分析している研究者に出会い、その方にあこがれたことで研究者をめざすようになりました。

私の 宝物



大学のゼミで みんなで読んだ本。

大学時代、ゼミでは1週間に1冊、通年で48冊以上の本を読むというハードな読書体験がありました。それにより、自分が知らない社会の問題について知ることができ、現在の研究につながったと感じています。